

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 3人・地域
- 中項目(政策の柱) (1)協働によるまちづくりの推進や地域コミュニティの再構築
- 小項目(政策の方向性) ■北海道のポテンシャルを活かした移住・交流の促進

【何を測る指標か】

道内での多様なワーケーションの普及状況を推測する指標

【定義・算出式】

テレワーク施設等を利用してワーケーションを行なった人数(延べ人数)  
・ワーケーションにおけるワークとバケーションのうち、地域でのワークに着目し、地域に設置されているテレワーク施設等の活用状況を把握することで道内での多様なワーケーションの普及状況を推測するため、次の項目に該当する人数(延べ)について、市町村に対し照会を行い回答いただいた数値の積算値。

- ・(公設・民営を含めた)テレワーク施設の利用者数
- ・企業が設置したサテライトオフィス等の従業員数
- ・宿泊施設におけるワーケーションプランの利用者数
- ・宿泊施設におけるワークスペースの利用者数
- ・市町村等が実施したワーケーションモデル事業及びモニターツアー等参加者数
- ・移住体験住宅等をワークスペースとしても活用した利用者数 など

【出典】

北海道総合政策部調べ、毎年調査

●指標の達成状況

【①基準値】※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値  
令和2年度(2020年度) 13,743人

【②目標値】  
目標年: 令和7年度(2025年度) 目標値: 100,000人

＜目標値設定の考え方＞

令和2年度(2020年度)の実績13,743人(延べ)を基準として、年平均で約1.5倍、5年間で約7倍とすることを目標としている。

【③実績値】※「実績値」は令和4年(2022年)7月1日時点での最新の統計数値

令和3年度 22,479人

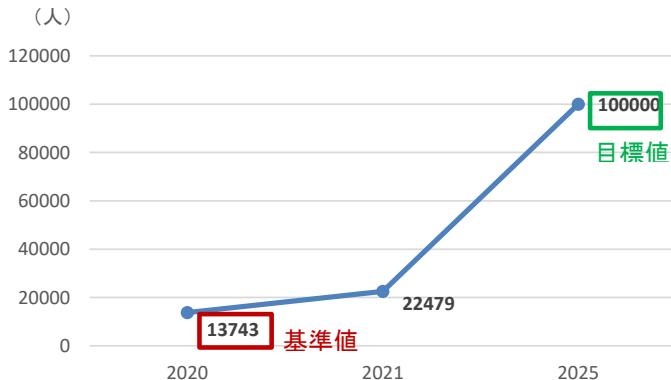
＜達成度合の分析＞

ポータルサイトを通じた企業等と受入市町村とのマッチングや、普及イベントにおけるPR等、オール北海道での促進の取組により、道内においてはワーケーション実施者が増加している。

●データ

テレワーク施設等を利用してワーケーションを行った人数(延べ人数)

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
人	13743	22479				100000
	基準値					目標値



平均正答率の状況 (小学校6年生、中学校3年生)

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 3人・地域
- 中項目(政策の柱) (2) 北海道の未来を拓く人材の育成
- 小項目(政策の方向性) ■ふるさとへの誇りと愛着を育み、これからの北海道を担う人づくり

【何を測る指標か】

本道の児童生徒の学力や学習状況の度合いを測る指標

【定義・算出式】

全国学力・学習状況調査における全国の平均正答率を100とした場合の北海道の各教科の数値  
(小学校6年生、中学校3年生)

- ・全国学力・学習状況調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析する全国調査。  
※1 令和元年度(2019年度)から、「知識」(国語A、算数・数学A)と「活用」(国語B、算数・数学B)を一体的に問う問題に変更され、「国語」及び「算数・数学」として実施。
- ※2 令和2年度(2020年度)については、新型コロナウイルス感染症の影響により「全国学力・学習状況調査」が中止。

【出典】

文部科学省「全国学力・学習状況調査」、毎年調査、7月頃公表

●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値

平成26年度 (2014年度)	小学校	国語A 98.5	国語B 95.3	算数A 97.1	算数B 94.8
	中学校	国語A 100	国語B 97.8	数学A 97.9	数学B 99.3

【②目標値】

目標年: 令和7年度(2025年度) 目標値: 令和7年度(2025年度)までに全ての管内で全国平均値以上(100以上)

<目標値設定の考え方>

本道の子どもたちの学力・体力のステップアップを推進することにより、道内全ての管内において、全ての教科で平均正答率を全国平均値である100以上とすることをめざし、目標値を設定。

【③実績値】 ※「実績値」は令和5年(2023年)3月31日時点での最新の統計数値

令和4年度 (2022年度)	小学校	国語 98.2	算数 96.7
	中学校	国語 99.4	数学 95.1

<達成度合の分析>

「学力向上推進事業」の各種事業を進めることにより、検証改善サイクルの確立、授業改善、地域の学力向上支援及び義務教育9年間を通じた教育課程編成の取組を促進し、全ての子どもたちの学力の向上を図る取組が図られていると考える。

●データ

■ 小学校

	基準値						実績値	
年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2021	2022
国語A	98.5	97.3	97.4	98.5	99.2	98.4	97.7	98.2
国語B	95.3	96.3	96.9	97.9	96.3			
算数A	97.1	96.1	97.0	98.3	98.0	96.8	96.2	96.7
算数B	94.8	94.4	94.3	94.8	94.6			

■ 中学校

	基準値						実績値	
年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2021	2022
国語A	100.0	100.0	99.3	99.1	100.7	99.0	99.8	99.4
国語B	97.8	99.8	97.7	99.3	100.0			
数学A	97.9	97.8	99.4	98.6	98.2	97.2	97.7	95.1
数学B	99.3	95.4	98.2	97.5	97.7			

児童生徒の体力・運動能力の状況  
(小学校5年生、中学校2年生)

## ●指標の説明

## 【対応する政策】

- 大項目(分野) 3 人・地域
- 中項目(政策の柱) (2) 北海道の未来を拓く人材の育成
- 小項目(政策の方向性) ■ふるさとへの誇りと愛着を育み、これからの北海道を担う人づくり

## 【何を測る指標か】

本道の児童生徒の体力の状況を測る指標です。

## 【定義・算出式】

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の総合得点の全国平均値を50とした場合の北海道の値(小学校5年生、中学校2年生)です。

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、全国的な子どもの体力等の状況を把握・分析する全国調査です。

## 【出典】

文部科学省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」、毎年調査

## ●指標の達成状況

## 【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値

平成26年度

小学校5年生 男子 48.5 女子 47.7

中学校2年生 男子 47.9 女子 45.9

## 【②目標値】

目標年:令和7年度 目標値:令和7年度までに全国平均値以上(50以上)

## &lt;目標値設定の考え方&gt;

本道の子どもの学力・体力のステップアップを推進することにより、小学5年生及び中学2年生の男女いずれも体力合計点を全国平均以上とすることを目指して、目標値を設定しています。

## 【③実績値】 ※「実績値」は令和5年(2023年)3月31日時点での最新の統計数値

令和4年度(2022年度)

小学校5年生 男子 49.4 女子 49.2

中学校2年生 男子 48.1 女子 46.6

## &lt;達成度合の分析&gt;

## [小学校5年生]

体育専科教員活用事業等の指定校において、組織的に体育科の授業改善を進め、体力合計点が全国平均を上回るなどの成果が見られたことから、こうした取組を全道の各学校に普及してきた。また、体育の授業以外にも各小学校において、「1校1実践」の取組を充実させたことにより、目標値に近づいていると考える。

## [中学校2年生]

全国に比べ、保健体育の授業が楽しいと回答した生徒が多い一方、授業の理解度に係る回答が低く、その他望ましい運動習慣の定着や生活習慣、食生活の定着にも大きな課題があることや、新型コロナウイルス感染症の影響で運動時間が減少したことにより、目標値に近づいていないと考えられる。

## ●データ

## 児童生徒の体力・運動能力の状況(小学校5年生、中学校2年生)の推移

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2021	2022
小5男	48.6	48.3	47.9	48.5	48.7	49	49.3	49.1	49.1	49.2	49.4
小5女	47.7	47.8	47.1	47.7	48.1	48.3	48.6	48.7	48.7	48.8	49.2
中2男	47.8	47.9	47.9	47.9	48.2	48.4	48.6	48.6	48.6	48.2	48.1
中2女	45.7	45.9	45.8	45.9	46.1	46.5	46.6	46.5	46.7	46.7	46.6

基準値

実績値

## 生涯学習の成果を活用している住民の割合

### ●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 3 人・地域
- 中項目(政策の柱) (2) 北海道の未来を拓く人材の育成
- 小項目(政策の方向性) ■ふるさとへの誇りと愛着を育み、これからの北海道を担う人づくり

【何を測る指標か】

生涯学習社会の構築に向けた社会教育を推進するための諸施策の成果を測る指標

【定義・算出式】

生涯学習に関する住民の意識調査において、「この1年くらい間に『生涯学習』を行った」と回答した人のうち、「学習活動を通じて身に付けた知識・技術や経験をまちづくりやボランティア活動などに生かしている」、「子供たちを育むための活動に生かしている」、「他の人(子供たちを除く)の学習やスポーツ活動、文化活動などの指導に生かしている」と回答した人数の割合

【出典】

北海道教育庁「生涯学習に関する住民の意識調査」、毎年調査、概ね3月公表

### ●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値

平成26年度(2014年度) 40.3%

【②目標値】

目標年: 令和7年度(2025年度) 目標値: 80.0%

<目標値設定の考え方>

生涯学習社会の構築に向けた社会教育の充実に取り組むことにより、生涯学習の成果を活用している住民の割合が平成26年度の約2倍である80%に到達することをめざし、目標値を設定

【③実績値】 ※「実績値」は令和4年(2022年)7月1日時点での最新の統計数値

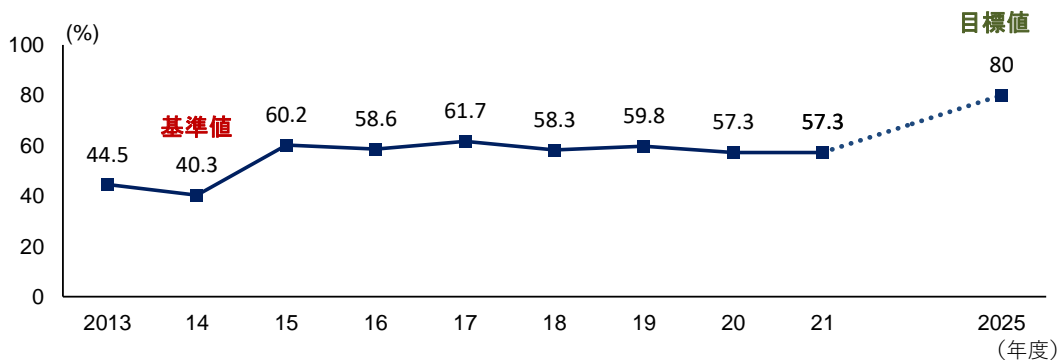
令和3年度(2021年度) 57.3%

<達成度合の分析>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、令和2年度は主催講座である社会教育セミナーを中止したが、令和3年度は全ての主催事業について中止することなく、オンライン開催により地域の指導者育成を継続することができた。これまで、住民の学ぶ意識やそれを地域で生かそうとする意識も横ばいで推移してきているが、今年度の「生涯学習に関する道民の意識調査」が実施前のため、その達成状況は不明である。

### ●データ

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
割合	44.5	40.3	60.2	58.6	61.7	58.3	59.8	57.3	57.3
		基準値							実績値



## 国際理解教育を行っている公立高校の割合

### ●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 3 人・地域
- 中項目(政策の柱) (2) 北海道の未来を拓く人材の育成
- 小項目(政策の方向性) ■グローバル化に対応した世界で活躍できる多様な人材の育成

【何を測る指標か】

公立高校における国際理解教育の実施状況を測る指標です。

【定義・算出式】

姉妹校との生徒の交流会や外国人による講演会など国際理解教育に関する取組を行っている公立高校の割合

【出典】

北海道教育庁調べ、毎年調査、9月公表

### ●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値  
平成26年度(2014年度) 71.0%

【②目標値】

目標年: 令和7年度(2025年度) 目標値: 100.0%を維持

<目標値設定の考え方>

姉妹校との交流等を推進することにより、令和元年度までに全ての公立高校で取組が実施されることを目標としています。なお、目標年については、北海道創生総合戦略において設定している令和元年度としている。

【③実績値】 ※「実績値」は令和4年(2022年)7月1日時点での最新の統計数値

令和4年度(2022年度) 100%

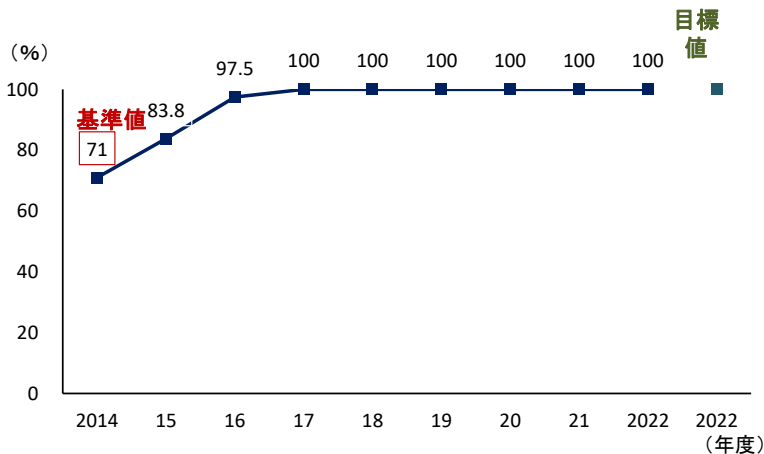
<達成度合の分析>

目標値は達成されているため、各学校における国際理解教育の継続的な実施に向け、指導助言を行う。

### ●データ

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
割合	71.0	83.8	97.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

基準値 実績値



## 外国人留学生数

### ●指標の説明

#### 【対応する政策】

- 大項目(分野) 3人・地域
- 中項目(政策の柱) (2) 北海道の未来を拓く人材の育成
- 小項目(政策の方向性) ■グローバル化に対応した世界で活躍できる多様な人材の育成

#### 【何を測る指標か】

本道における外国人留学生の受入拡大に向けた環境整備の状況を測る指標

#### 【定義・算出式】

「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、道内の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び道内の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生の数

#### 【出典】

独立行政法人日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」、毎年調査、概ね1月公表

### ●指標の達成状況

【①現状値】 ※「現状値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値  
平成26年度(2014年度) 2,588人

#### 【②目標値】

目標年: 令和7年度(2025年度) 目標値: 3,700人

#### <目標値設定の考え方>

外国人留学生の受入環境の整備等を行うことにより、年間約100人の留学生の増加を目指し、目標値を設定

【③実績値】 ※「実績値」は令和4年(2022年)7月1日時点での最新の統計数値

令和3年度(2021年度) 3,608人

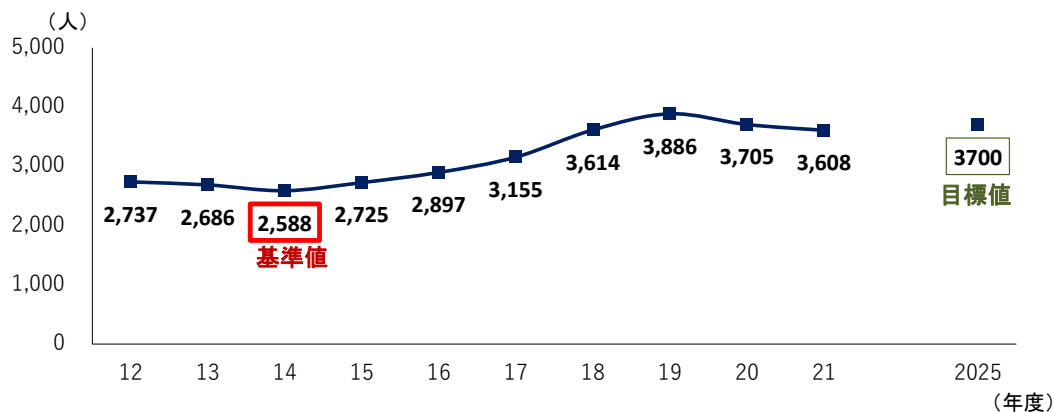
#### <達成度合の分析>

大学や(公社)北海道国際交流・協力総合センターと連携の下、外国人留学生の受入拡大等に努めたが、R3年度の実績値はコロナ禍の出入国制限の影響により、前年度から減少した。

### ●データ

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
留学生数	2,737	2,686	2,588	2,725	2,897	3,155	3,614	3,886	3,705	3,608

基準値 実績値



## いじめに対する意識（小学校、中学校）

### ●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 3 人・地域
- 中項目(政策の柱) (2) 北海道の未来を拓く人材の育成
- 小項目(政策の方向性) ■次代の社会を担う子ども・青少年が健全に育成される環境づくり

【何を測る指標か】

いじめに対する児童生徒の意識の向上度合いを測る指標です。

【定義・算出式】

全国学力・学習状況調査において、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」という問いに対して、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

【出典】

文部科学省「全国学力・学習状況調査」、毎年調査、8月頃公表

### ●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値

平成26年度(2014年度)  
小学校 82.3% 中学校 70.7%

【②目標値】

令和7年度(2025年度)までに小学校中学校ともに100%

<目標値設定の考え方>

いじめの未然防止に対応するための取組を推進し、全ての児童生徒に「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」という意識を身に付けさせることを目標としている。

【③実績値】 ※「実績値」は令和5年(2023年)3月31日時点での最新の統計数値

令和4年度(2022年度)  
小学校 86.9% 中学校 84.0%

<達成度合の分析>

各管内で開催した「どさんこ子ども地区会議」に参加した児童が、その成果を自校に還元するなど、各学校においていじめの未然防止に向けた主体的な取組が推進されたが、結果に大きな変化は見られなかった。(※令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により「全国学力・学習状況調査」が中止となったため、実績なし)

### ●データ

小学校

(単位: %)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
北海道	79.6	82.3	83	85.0	83.2	88.0	87.2	-	87.5	86.9
全国	79.9	82.1	81.8	83.1	81.2	85.9	85	-	84.1	83.9

基準値

実績値

中学校

(単位: %)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
北海道	69.1	70.7	71.3	73.6	73.5	80.8	79.3	-	83.7	84.0
全国	71.4	72.1	73	74.8	73.3	80.7	78.3	-	81.4	82.3

基準値

実績値

